年度末報告書（実行団体用）
※報告書内の青文字は説明内容、赤文字は文字数上限になりますので提出時には削除してください。

事業計画より転記してください

1年目　年度末報告書	
1. 事業名	**療育部門の組織基盤強化**
2. 実行団体名	**認定 NPO 法人発達わんぱく会**
3. 実施期間	**2020 年　4 月～ 2023 年　3 月**
4. 報告期間	**2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日**
5.事業進捗に関する報告（概要）	**進捗状況**
中長期アウトカム 日本全国において、「すべての子どもが、発達障害を持って生まれても、自立したその人らしい大人になって、豊かな人生を送れる社会」が実現する。	
短期アウトカム 1. 浦安市・江戸川区の「こっこ」教室において、経験豊富な療育スタッフに蓄積されている暗黙知が、療育スタッフ共通のノウハウとして見える化・言語化され、療育スタッフ育成の道筋が明らかにされることにより、中堅スタッフは安心して療育に取り組み、新人スタッフは効率的にノウハウを身につけることができる状態になる。 2. 浦安市・江戸川区等において、「こっこ」療育スタッフが成長することにより、「こっこ」に通う子どもたちがより質の高い療育を受けられる状態になる。 3. 浦安市・江戸川区等において、「こっこ」療育スタッフの内部育成が促進され教室数が増えることにより、待機児童が「こっこ」の療育を受けられる状態になる。	計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている／その他 （　　）
アウトプット 1-1. 療育のまとめ 1-2. 療育スタッフ育成の道筋のまとめ 1-3. まとめに基づく新体系法人内研修の実施 2. 新体系法人内研修を受講したスタッフによる療育の実施 3. 「こっこ」教室数の増加	計画より進んでいる　／　計画どおり進んでいる　／計画より遅れている／その他 （　　）

6.事業進捗に関する報告（詳細）

- 法人内でプロジェクトチーム（PT）を組成し、「こっこ」における日々の療育、教育研修チームによる法人内スタッフ研修、コンサルティング事業チームによる外部向けスタッフ研修を通じて、それぞれの部署のスタッフが蓄積してきた知識・経験に基づいて、暗黙知を見える化・言語化し、既存の資料を整理統合することにより、以下の成果を得る。
  - 療育のまとめ
    - 3 種の療育（個別療育、グループ療育、音と色の療育）の目的の明示
    - 3 種の療育の実施方法の明文化
    - 3 種の療育のプログラムの内容例集の作成
  - 療育スタッフ育成の道筋のまとめ
    - 「こっこ」療育スタッフとしての共通概念、理論の明確化
    - 「療育のまとめ」の成果に基づいた療育を、療育スタッフが自律的に実施することができるようにするための実践的な育成プロセスの確立
- 新型コロナ感染拡大に対応して、将来的に療育をリモートで行う可能性を検討するためのパイロット的な事業として、Zoom を利用した「こっこリモート支援」を行う。
  - 療育は対面で行うのが最も有効であることから、7 月以降は対面を基本としているが、教室における感染リスクを下げるために利用人数の制限を設けている。特にグループ療育では定員を減らしたため、利用できなくなった児童にリモート支援を行っている。
  - 12 月には一教室で感染者が発生。保健所により濃厚接触者と認定された者はいなかったが、来室に不安がある利用者にはリモート支援を実施する対応を行った。
  - また教室での保護者とのコミュニケーションを控えざるを得ないことから保護者向けの支援をリモートで実施している。

7.資金計画に関する報告

① 資金計画どおりの執行状況ですか。 ： 計画どおり進んでいる ／ 計画より遅れている ／ その他（ ）

→①で「計画どおり進んでいる」以外を選択した場合の理由：

② 報告年度に用意する予定だった自己資金は集めることができましたか。： 計画より進んでいる ／ 計画どおり進んでいる ／計画より遅れている

→②で「計画より遅れている」を選択した場合の理由：

8.報告期間における課題と次年度にむけた取り組み

本件実施事業の開始と前後して新型コロナ感染が急速に広がり、児童の通所を前提とする児童発達支援事業の運営は根本からの見直しを迫られ、急遽「こっこリモート支援」を構築した。短期間でこのようなオンラインを活用した取り組みを行った児童発達支援事業所は決して多くはなく、当法人の現場の底力を実感させるものではあった。とはいえ、その対応に経営陣や療育現場の指導層（マネージャー、チーフ）が手を取られて本件実施事業への着手（PT 発足）が遅れ、その点では組織としての脆弱さが表れたと言える。今後も不測の事態にも柔軟に対処していくためには、経営陣や現場の指導層をより充実させていく必要があり、本件実施事業の遂行により療育手法の体系化、人材育成の仕組み化・体系化に取り組み、人材の層を手厚くしていくことが肝要であることを、改めて認識

させられた。

9.広報に関する報告

10.規定類の整備に関する報告

① 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。： 完了 ／ 整備中

② 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。： 全て公開した ／ 一部未公開 ／ 未公開

→②で「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：整備中につき時期未定

③ 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。： はい ／ いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：変更なし

11.ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

① 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。： はい／いいえ

→①で「いいえ」を選択した場合の理由：

② 内部通報制度は整備されていますか。： はい ／ いいえ

→②で「はい」の場合は、設置方法（複数選択可）： 内部に窓口を設置 ／外部に窓口を設置 ／JANPIA の窓口を利用

③ 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。： はい ／ いいえ

→③で「いいえ」を選択した場合の理由：

④ 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。： はい ／ いいえ

→④で「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ コンプライアンス委員会（※）は定期的に開催されていますか。： はい ／ いいえ

※コンプライアンス委員会を設置していない実行団体は、担当部署または担当者に報告の対象となる不正行為を資金分配団体に報告済かを回答してください。
報告の対象となる不正行為とは、資金分配団体-実行団体間の資金提供契約書第 15 条に定めるものです。

→⑤で「いいえ」を選択した場合の理由：コンプライアンス責任者（事務局長）が資金分配団体に報告すべき事案はなかった。

⑥ 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）： 内部監査を実施／外部監査を実施／実施する予定がない

→⑥で「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

14.活動の写真

活動の写真がある場合には貼り付けてください。（画像データは 1 枚 2MG 以下で 3-4 枚程度としてください。）